



2014.



マヤ・アンデス染織につらねる



collection/



www.kcua.ac.jp/gallery

コレクション/

新しいカタチ

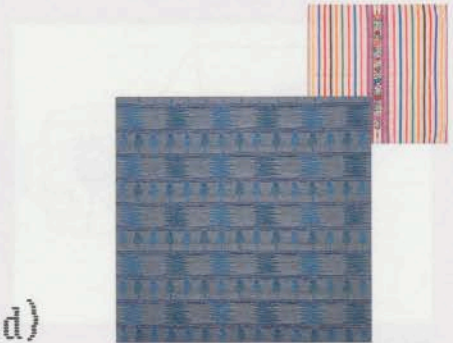
connection

コネクション



1.7(Tue)-15(Wed)

11:00-19:00



最終入館は18:45まで
月曜休館

京都市立芸術大学ギャラリー
@kcua (Gallery A)

collection/connection

マヤ・アンデス染織につらねる新しいカタチ

2014.1.7(Tue)-15(Wed) / 月曜休館

11:00-19:00 (最終入館は18:45まで) *観覧無料

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@kcua (gallery A)

出品者：学部生、院生、卒業生など十数名

【ギャラリートーク】

マヤ・アンデス染織コレクションのお話

1月12日(日) 14:00-15:30

藤井龍彦先生(国立民族学博物館名誉教授)、今回コレクションを寄贈くださった石原繁野先生(社会福祉法人大木会「あざみ寮」元寮長)、ジャカード織りで協力いただいた古谷稔氏(繊維工業技術支援センター所長)を囲んで展示会場内でお話を開催いたします。(申し込み不要)



学生作品アイディアスケッチ



コレクションより(ウィビル)



学生デザイン(ジャガード織)



コレクションより(シンタ)



地下鉄「二条城前」駅(2番出口)徒歩約3分
市バス「堀川御池」バス停下車すぐ

住所：604-0052 京都市中京区油小路通御池押油小路町238-1
URL：www.kcua.ac.jp/gallery

主催：京都市立芸術大学 美術学部染織研究室
協力：兵庫県立工業技術センター 繊維工業技術支援センター

お問い合わせ：教務学生支援室 卒業推進担当
電話：075-334-2204

滋賀県にある「あざみ寮」で長年織物指導を担ってこられた石原繁野氏が、1970年代から染織研究のために現地で収集された中南米の染織品127点がこの度、京都市立芸術大学に寄贈されました。

これらは染織工芸を学ぶための貴重な「生きた資料」です。具体的には、グアテマラなどマヤの民族衣装のウィビルと呼ばれる女性用上衣やスカート、頭部に巻く飾り紐や帯です。またアンデス地方の資料には物を包んだり女性の肩掛けにするリフリヤ、男性用上衣のポンチョ、帯や帽子、農産物を入れる袋など、布の用途は実に様々です。その大半は自給自足の繊維素材で紡ぎ、腰機で織り、刺繍し、編まれたものです。これらは衣服として寒暖の差から人々の身をまもる機能を持ちながら、そこには特徴ある華やかな色彩や大胆な文様がほどこされています。それは地域の気候や人々の暮らしに密着しており、集団としてのアイデンティティも表現されているのです。

そこで、実技授業「資料を紐とく」と題し、実物資料を元実践的な取り組みを行いました。

学生たちは直接これらに触れる機会を得て、素材や文様、技法などについて多角的に学び、その後二つの方向で創造活動を試みました。一つは兵庫県立工業技術センターの協力の元、学外とのコミュニケーションをはかりながら、ジャカード機による広幅のテキスタイル制作へとという試みです。もう一つは各自が様々な資料から触発されて、造形作品へと展開させることです。

将来のクリエイターへの途上にある学生たちが、寄贈された海外の染織品に始めて出会うところから、何を発掘し、どう飛躍することができるのかという実験でもあると言えます。

染織・テキスタイルは人間の生活に直結する重要な文化資源です。それらを「生きているアーカイブ」として位置づけ、手を使ってものを作るという共通基盤の上で、学外の機関と連携しながら「新しい活かし方」を柔軟に探っていきたいと思えます。

展覧会ではマヤ・アンデス染織コレクションと、学生等のテキスタイル及び作品を展示します。また会期中にギャラリートークを予定しております。どうぞご覧ください。